

# 市民文芸

## 短歌 令和四年度阿南市文化祭秋季短歌誌上大会選

**市長賞** 宿痾もつ孫との二人暮らしには差す日  
やさしも秋が居座る 勢井 恒子

**議長賞** 撓うほど竿にかけられ出番待つ夏の夜  
明けのウエットスーツ 浅海 弥生

**教育長賞** 杳き日に「白佛言」と書きし日の剪  
の面影しきりと浮かぶ 佐々木夫美

**教育長賞** おさな子は通園バスに置き去りに空  
の水筒命の悲鳴 原 美智子

**秀作** 独り言いいて終れり吾の愚痴聞きくれる  
人なしそれも亦よし 勢井 恒子

**秀作** 盆の宵に勝手口よりちらしずし持ちくれ  
し亡姉今も待ちおり 棚野 久子

**秀作・互選賞第二位** コンバイン採算などはケセラ  
セラ粉飲み糞吐き堂々進む 西崎まき子

**秀作** 椎の花ふりしく山家に車止め五十年商い  
きたる我が道思ふ 井上 正恵

**互選賞第一位** 踏んばりて踏んばりぬいて老夫  
婦盆の炎天稻刈り終える 高尾 久枝

**互選賞同点二位** 無意識の母ははつきり「ありがと  
う」我も言えるか最期の一言 吉形 和恵

## 俳句 第五十二回阿南市文化祭誌上俳句大会選

**市長賞** ざくざくと鎌首軽し豊の秋  
**議長賞** 先生が一番うしろ花野行く  
**教育長賞** しなやかに風を躲して花芒  
**俳連賞** 暮れ残る山家の軒や唐辛子  
天高し少年剣士一礼す

語部の吐き出すおもひ長崎忌  
今年米先ず病む友へ送りけり  
秋深し色鉛筆の赤の減り  
清貧に生きた父母曼珠沙華

今年米あまた積み込む郵便車  
秋風や古き我が家の染み天井  
桐一葉笑む写し絵の献花台  
芳しき匂ひ湧き立つ刈田かな

三姉妹すこやかに老い稲の秋  
白雲を川面に流し秋の風

治癒願ひ感謝をしつつ玉子粥  
のんびりと生きる我が身を労わつて  
誰にまで言つたか忘れ内緒ごと  
ゆくゆくは金の卵となる器

妻寝言負けるものかと軒かく  
一休みし妻のメモるまま動く  
花愛でる心いつしか風いでいる  
**一般応募** 朝昼晩薬を前に食事する  
喜怒哀楽ゆるりゆるりと越えた皴  
二三回人生あれば抜かりなく

## 川柳 阿南川柳会選

近藤ヤス子  
喜来富士子  
田木 勲

青木 慧  
神野千鶴子  
庄野 早苗

中野 郁子  
長楽 健司  
山野 賢治

田中 栄子  
長池 秋子  
神原 鹿山

近藤 まい  
中川よし子  
谷中喜代子

篠原 良子  
田上 鶴子  
高木 旬笑

多田紀久代  
西田 修身  
原 公美子

持木 寿栄

秋川 和子  
島尾美津子  
武田 敏子

## 漢詩 阿南漢詩研究会・青松吟社選

**新年偶吟** 周甲皆新迎歲時  
南窗已馥早梅枝  
守貧白屋猶如昨  
引暖條風上鬢絲

※周甲一千支の一巡  
増喜 泰典  
周甲 皆新たに歳を迎うる時  
南窓 已に馥る早梅の枝  
貧を守る白屋 猶お昨の如し  
暖を引く条風 鬢糸に上る

**初春偶成** 先聞梅信草堂春  
輕暖輕寒鳥語頻  
八十五齡清筆硯  
回來玉曆誓心新

谷口田鶴子  
先ず梅信を聞く 草堂の春  
輕暖輕寒 鳥語頻りなり  
八十五齡 筆硯を清め  
回來玉曆 誓心新たり

**新年感有り** 癸卯回星年改期  
馬齡加一感懷滋  
仁風敬老恩波洽  
報謝胸中先托詩

市田 嘉則  
癸卯 回星年改まるの期  
馬齡 一を加えて 感懷滋し  
仁風 敬老 恩波 洽し  
報謝の胸中 先ず詩に托す

